

## X 緑の特徴と今後の課題

### 1. 調査結果による緑の特徴と課題

<b>樹木・保護樹木</b>
<p>●特徴</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・区内の胸高直径 50cm 以上の樹木は、7,245 本であり、1 ha あたりの樹木本数は 6.4 本/ha であった。これは、東京都内の他区と比較して高い水準である。</li><li>・前回調査と比較して、樹木本数は横ばいである。約半数の区域で樹木本数が増加していた。一方、公園や学校施設などの改修により減少した区域がみられた。</li><li>・樹木本数が多い場所は、特別区域の小石川後樂園、小石川植物園、豊島岡墓地、六義園、東京大学で、一般区域では占春園～教育の森公園、肥後細川庭園～椿山荘などの大規模な庭園や公園、護国寺などの社寺、お茶の水女子大学などの樹木の多い大規模な教育施設、大規模緑地のある区域、住居系の区域であった。一方、商業系の区域で樹木本数が少なかった。</li><li>・最も多い樹種はイチョウで、次いで、ケヤキ、サクラ、スダジイの順であった。これらの 4 種で樹木の 56% を占めている。</li><li>・区内の「保護樹木」は 690 本が指定されており、そのうち 677 本が確認された。</li><li>・「保護樹木」の健康度は平均で 1.59 と、おおむね健康度 2 以下の正常な状況であるが、健康度 3～4 となる樹勢や樹形の悪化の進んでいる保護樹木もあった。</li></ul> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「保護樹木」指定による、ランドマークとなる大木の保護の推進。</li><li>・多様な樹種の保護・育成の促進。</li><li>・健康度の低い「保護樹木」の樹勢回復対策の実施と、適切な剪定等の管理普及。</li></ul>
<b>樹林地</b>
<p>●特徴</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・300 m<sup>2</sup>以上の連坦性のある樹林地は 104 か所、87.0ha であった。前回調査から 3.0ha 増加している。これは、樹木の自然生長による樹林地の拡大や、樹林地の連坦性の拡大による面積の増加が考えられる。</li><li>・1ha 以上の樹林地 16 箇所ですべて全樹林地面積の 73.9% を占めている。六義園・小石川植物園・小石川後樂園・東京大学・豊島岡墓地などがその主なものである。</li><li>・六義園や小石川後樂園のスダジイ-ヤブコウジ群集、タブノキ-イノデ群集など、自然度の高い植生が残されているのも特徴である。</li></ul> <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・樹林地を構成する樹木の自然生長の維持。</li><li>・「保護樹林」指定による民有地の樹林地の保全。</li><li>・自然性の高い樹林地の保全と維持。</li></ul>

## 公園

### ●特徴

- ・区内の公園緑地は、116 公園 56.5ha であった。区民一人あたり公園面積は 2.4 m<sup>2</sup>、区域面積に占める公園緑地の割合、公園緑地面積率は 5.0% であった。うち、区立公園及び児童遊園の「身近な公園」の公園面積率は 2.1% であった。
- ・条例で標準とする、一人あたり公園面積 5.0 m<sup>2</sup> は、未達成である。
- ・前回調査と比較して、箇所数及び公園緑地面積率に変化はなく、面積は約 900 m<sup>2</sup> 増加した。一方、区民一人あたり公園面積は、人口増加により 0.1 m<sup>2</sup> 減少していた。
- ・区立公園及び児童遊園の公園誘致圏の充足率をみると 77.3% であった。特に、弥生、本郷北、水道の充足率は低いが、弥生と本郷北は東京大学の敷地を大きく含むためである。

### ●課題

- ・既存公園の再整備と合わせて質的な確保について検討。
- ・市民緑地認定制度を活用した、オープンスペースの確保。

## 緑被率・みどり率

### ●特徴

- ・緑被率は 19.1% であった。この緑被地に水面および公園の裸地を加えたみどり率は 19.7% であった。これらのうち樹木被覆地は 17.9% で緑被地の 9 割を占めていた。
- ・緑被率・樹木被覆地率ともに平成 7 (1995) 年以降増加傾向にあり、樹木被覆地の増加が緑被率の増加の主な要因である。

### ●課題

- ・まとまった緑被地である公園・学校・社寺などの緑の保全。
- ・公共施設を中心とした緑化による緑視率の拡大。

## 屋上緑化・壁面緑化

### ●特徴

- ・区内の屋上緑化は 5.4ha で、前回調査と比較すると 0.1ha 増加し、主な増加要因としては学校屋上の緑化及び個人宅でのプランター緑化であった。
- ・屋上緑化の余地があるとみられる屋上緑化可能地は、区内に約 243ha 存在しており、緑化可能地に対する屋上緑化率は 2.2% で、低層建築群及び高層建築群や学校中心に屋上緑化の余地はまだ多く存在している。
- ・区内の壁面緑化は、0.75ha であったが、建替えやブロック塀の撤去などにより、前回調査と比較すると 0.30ha 減少している。

### ●課題

- ・屋上緑化のさらなる推進。
- ・建築物の新築・改築の際の壁面緑化の普及。

## 緑視率

### ●特徴

- ・区内の平均緑視率は 14.3% であった。
- ・前回調査と比較すると 0.1 ポイントの増加、前々回と比較しての 0.4 ポイントの減少であった。建て替えに伴う樹木の伐採や、道路形状の変更などによる街路樹の撤去などが減少の原因である。

### ●課題

- ・民有地の建て替え時における緑の維持や接道部緑化の推進。
- ・道路形状変更時の街路樹の新規植栽の推進。

## 道路

### ●特徴

- ・区内の公道（国道、都道、区道）上の街路樹および植樹帯の植栽状況は、街路樹が 6,670 本、植樹帯が 42,997 m<sup>2</sup> であった。
- ・通行者の休憩所として、ポケットパーク、グリーンスポットが 36 か所整備されている。
- ・生垣や道路沿いの樹木など、接道部の緑化状況をみると、接道緑化延長は 88.18km で、接道部緑化率は 20.0% であった。
- ・接道部緑化率を前回調査と比較すると、全体で 1.7 ポイント減少し、特に、区道で 1.5 ポイント、私道（幅 4m 以上）で 9.9 ポイント減少していた。

### ●課題

- ・民有地における接道部緑化の推進。
- ・街路樹などによる市街地の景観確保方策の推進。

## 地表面温度

### ●特徴

- ・夏期の台地上部の市街地でヒートアイランド現象の発生が確認された。
- ・大規模な樹林地や水面を擁する緑地で地表面温度の低減効果が確認された。
- ・街路樹を有する高規格の道路や、社寺などの樹林地の連続する地域で、市街地の高温域の拡大が防がれていることが確認できた。

### ●課題

- ・ヒートアイランドを緩和する樹林地や水場を伴うオープンスペースの保全。
- ・樹林地の成長促進。
- ・街路樹等の整備による風の道となるネットワークの形成。

## 生物多様性

### ●特徴

- ・公園内の池や水路に集まる飛翔性の昆虫類が確認されている。
- ・根津神社や千石緑地など、古くからの樹林に「タヌキ」が確認されている。
- ・ペット由来や開発に伴う土砂移入で、様々な外来種が確認されている。
- ・エコロジカルネットワークの観点からは、種によって、周りに樹木が生息している池が存在せず水辺を移動しにくいエリアが存在したり、樹林の大きさや連続性に乏しく生息・移動ともに適正が低いエリアが存在する。

### ●課題

- ・生物の生息地となる一団の緑地の保全と、水場の形成。
- ・街路樹・公園・屋上緑化などによる生物の移動経路となる連続的な緑の確保。

## 2. 緑の構造からの課題

### (1) 環境保全系統からの課題

六義園・小石川植物園・護国寺などの大規模な樹林は、都市における生活環境の保全や、生物多様性の保全の観点から、文京区にとって重要な資源である。これらの大規模な緑地のヒートアイランドの緩和や、生物の生息環境域の形成などの機能を、市街部に効果的に取り込む方策を講じていくことで、文京区の都市環境を向上させることができる。

今後の文京区の都市環境形成にかかる緑の課題としては、

- 公園や学校などで、ヒートアイランドの緩和や、水辺の生き物の移動の中継地点・生息域となる機能を有する池や水路などの水辺整備。食餌植物などの植栽。
- 神田川沿いを中心とした市街地の緑化の促進。
- 学校や病院、集合住宅などの大規模施設の緑化の推進。
- 社寺や大学などの大規模な樹林地の保全推進。
- 屋上緑化のさらなる推進。
- ヒートアイランド対策、エコロジカルネットワーク形成に資する道路緑化の推進。

などを進めていく必要がある。



図 X - 1 文京区の環境保全系統（現況図）

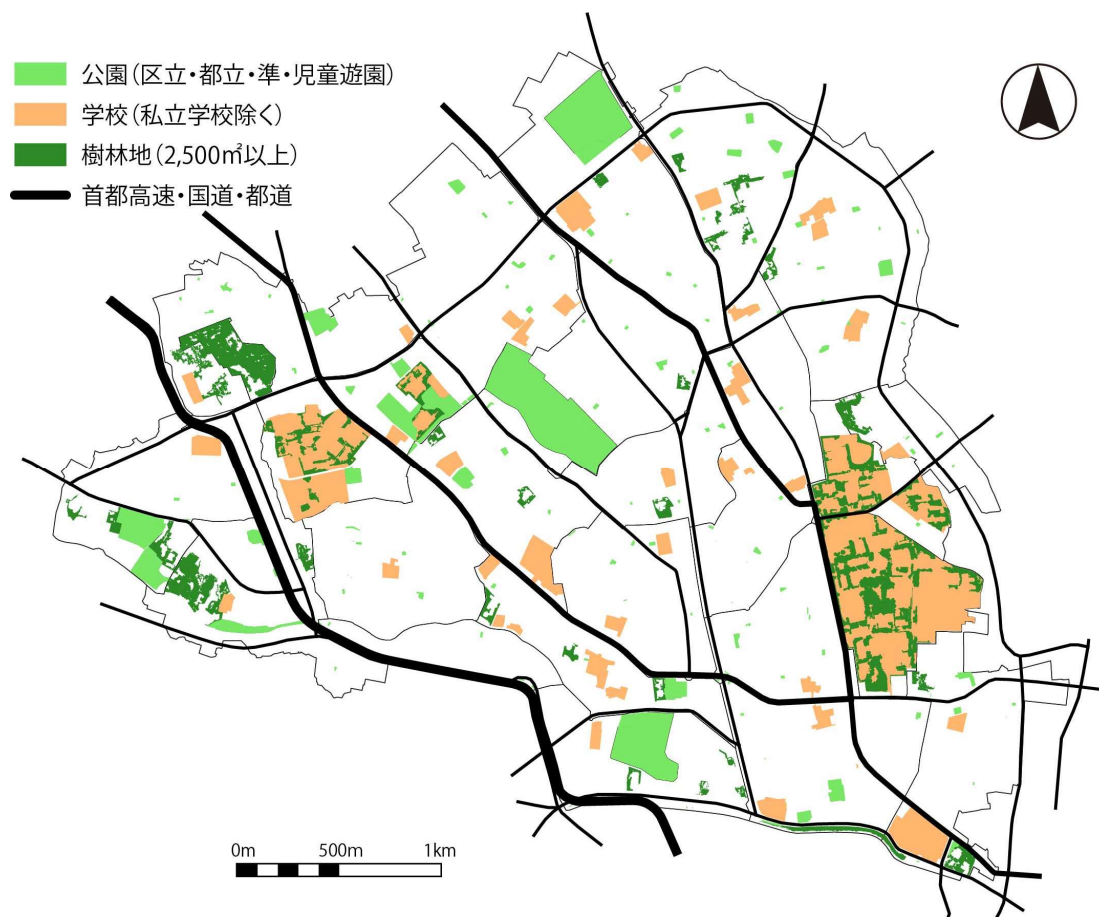
## (2)レクリエーション系統からの課題

公園の量的な整備については文京区みどりの基本計画の目標は達成できていない。公園の誘致圏については、ほぼ全域をカバーしつつある。量的な公園の確保も今後とも努力をし続けていく必要があるが、一方で、既存の公園の地域や多様な利用者に対する利用価値を高めることや、区内にある豊富なまとまりのある樹林地の活用、学校グラウンドなどの活用など公園に準ずる場を確保していくことも重要である。

今後の文京区の公園緑地整備の課題としては、

- 既存の公園の「公園の質」の向上
- 社寺の樹林や学校のオープンスペースの活用
- 市民緑地認定制度を活用した、オープンスペースの確保。

等を図っていく必要がある。



図X-2 文京区のレクリエーション系統（現況図）

### (3) 防災システムからの課題

都市部における緑地や公園には、火災の延焼防止機能や、災害の際の一時避難場所となる機能がある。市街地の多い文京区においては、これらの機能を積極的に活用していくことが望まれる。

また、地震においても避難路や通学路の安全確保のために、道路沿いのブロック塀などの生垣化などを積極的に働きかけることも都市防災上重要である。

今後の文京区の防災に資する緑や公園の課題としては

- 火災時の延焼防止や避難路の確保に資する、道路沿いの緑地帯など街路緑化の推進
- 震災時の安全確保のための通学路、生活道路に面するブロック塀の生垣化の推進
- 避難困難地での一時的な避難に資する公園整備の推進
- マンホールトイレや防災井戸の設置など、地域の防災機能向上に資する「公園の質」の向上

などを進めていく必要がある。



図 X-3 文京区の防災システム（現況図）

#### (4) 景観系統からの課題

文京区は昔からの樹林地が現代においても継承されている地域である。また、多くの樹木が残されており、文京区の景観形成に資している。一方で、市街化も進み市街地景観が連坦している地域でもある。

文京区において、旧来からの景観資源を保全しつつ、道路や公園・公共施設における視覚的に立体感のある樹木による緑化をおこなうことは、潤いある都市景観形成のためには欠かせない。積極的な樹木植栽と、植栽された樹木の成長により樹木被覆地率の増加を今後とも促進していかなくてはならない。

今後の文京区の都市景観形成にかかる緑の課題としては、

- 社寺林や庭園など歴史ある樹林地・樹木の保全
- 樹木の樹冠を大きく成長させるための管理育成体制の確保
- 樹木による学校および公共施設の緑化推進
- 街路樹の整備・保全による道路の緑化推進
- 屋上・壁面緑化の推進

などを進めていく必要がある。



図X-4 文京区の景観系統（現況図）